

議員特別研修実施報告書

報告議員名	土田 百合子	報告日	令和6年2月8日
調査研究・研修等 名 称	地方創生SDGs特別講座		
実 施 日	令和6年1月16日		
会 場	東京都千代田区リファレンス国際ビル貸会議室2階		
調査研究・研修等の 概 要	<ul style="list-style-type: none">・SDGsカードゲームと地方創生（総論）・地方創生（各論）、人口増加策、DX、GX、公共交通など		
調査研究・研修等の 成果と感想	別紙のとおり		

※1調査研究・研修等の成果を証する書類の写しを添付してください。

※2調査研究・研修等に要した費用の支出を証する書類を添付してください。

資料報告書

1・地方創生SDGs特別講座

〔開催日時〕 令和6年1月16日：午前10時～12時30分

場所：リファレンス国際ビル貸会議室2階

<part 1：総論>:SDGs カードゲームと地方創生

講師：山中 俊之 氏

2030SDGs 公認ファシリテーター

株式会社グローバルダイナミクス取締役

長崎市政策顧問・大阪市特別顧問

芸術文化観光専門職大学教授・神戸情報大学院大学教授



今日の内容

- ① 地方創生とSDGs
- ② SDGs カードゲームを体験

③ 議員として

○はじめに、クイズです。

- ・ 15.7% (相対的貧困)
- ・ 600万トンと300万トン (食糧問題)
- ・ 100種減少 (微生物)

環境、人権、格差…全人類に影響ある放置できない地球的課題

○私見:地方創生の考え方

- ・単に人口増加策ではない。社会全体をどのようにSDGsの視点から変革していくのかが問われる。
- ・世界の動きを視野に入れる。世界経済の動向に加え先進事例を取り入れる。
- ・リーダーとリーダーが行う尖がったことを取り入れる地域風土が重要である。

○SDGs 未来都市・モデル事業の取り組み

○SDGs 未来都市【60都市】

① 自治体のSDGs推進のための取り組み

②SDGs達成に向けた事業の実施

- ・自治体SDGsモデル事業〔20都市〕
- ・上限4千万円/都市

①経済・社会・環境の三側面の総合的取り組みによる相乗効果の創出

②自律的好循環の構築③多様なステークホルダーとの連携

④多様なステークホルダーとの連携

○自治体 SDGs 推進関係省庁タスクフォースによる省庁横断的な支援

- ・計画策定 ○選定都市の事業計画策定への支援
 - 各省庁支援施策活用等の助言
- ・事業実施 ○各省庁支援施策を選定都市に集中投入
 - 取組状況フォローアップの評価基準作りへの参画

▲未来都市に応募する予定はあるか★=議会での質問ポイント

○成功事例の普及展開

- ・選定都市の成功事例を国内外へ情報発信 ●イベント開催 ●幅広い世代向けの普及啓発事業等 → 2030年持続可能なまちづくり

<出典「自治体 SDGs」>

○Goals 世界を変えるための17の目標、169のターゲット

232の指標がある。

- ・1. 貧困をなくそう=「世界が繋がっている」と「私が起点」がポイント
- ・5. ジェンダー平等を実現しよう

○世界を変えるための17の目標▼

- | |
|--|
| 1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と機械革新の基礎をつくろう 10. 人や国の不平等をなくそう 11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさも守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう |
|--|

▲2015年9月に国連が様々な立場の多くの人々へのインタビューを経て制定。2016年から2030年までの15年間の目標。

○地方創生に向けた5つの特徴

- ・普遍性 先進国を含め、すべての国が行動
- ・包摂性 (ほうせつせい) 人間の安全保障の理念を反映し誰一人取り残さない

▲【地球上のすべての人に対する配慮が求められる】

- ・参画型 すべてのステークホルダーが役割を
- ・統合性 社会・経済・環境に統合的取り組む
- ・透明性 定期的なフォローアップ＝【毎年国連総会時期にレビューされる】

(出典) 経済産業省資料

○世界で広がる「2030SDGs」

- ・企業・海外で@ルワンダ・省庁・学校

➡これまで15万人以上が参加

○ゲームの説明

- ・本日プレイするゲームは「2030SDGs」(ニーゼロサンゼロエスディーズ)といます。
- ・2030年の私たちの世界がどうなっているのかをシミュレーションするゲームです。
- ・みなさんには、目標をつくって2030年まで活動してもらいます。

○ゲームの説明

- ・まずは、はじめにゴールを決めてもらいます。
- ・ゲームの成否はこの「ゴール」を達成できたかどうかできまります。
- ・大いなる富 ・悠々自適 ・貧困撲滅の聖者 ・環境保護の闘士

・人間賛歌の伝道師

⇒現実の世界と同じように、この場のわたしたちの世界にもさまざまに異なる価値観を持った人達がいる。

○配布物とゲームの基本の進め方

・お金

・タイムカード：2030年までの有限な時間

・プロジェクトカード：あらゆる活動（経済、普及、消費など）

お金と時間を使って・プロジェクト活動を行う事で

⇒最終的にゴールを達成する。

プロジェクトの進め方①

・経済が循環、移動時間が早くなることで、お金が増え、時間が短縮化される。

プロジェクトの進め方②

「世界の状況メーター」は世界の現状を表しています。

・世界の状況メーターが一定の水準にないと実行できないプロジェクトがあります。

・世界の状況メーターはプロジェクトの遂行によって変化します。

○おさらい

このプロジェクトを実行すると世界の状況メーター、経済、環境、社会

⇒そのパラメーターがどういう水準になったらベストなのか、どういう世界の状況が理想なのか、ということも意識しながら進めることが必要。

所感

地方創生SDGs特別講座

〈Part 1：総論〉SDGsカードゲームと地方創生

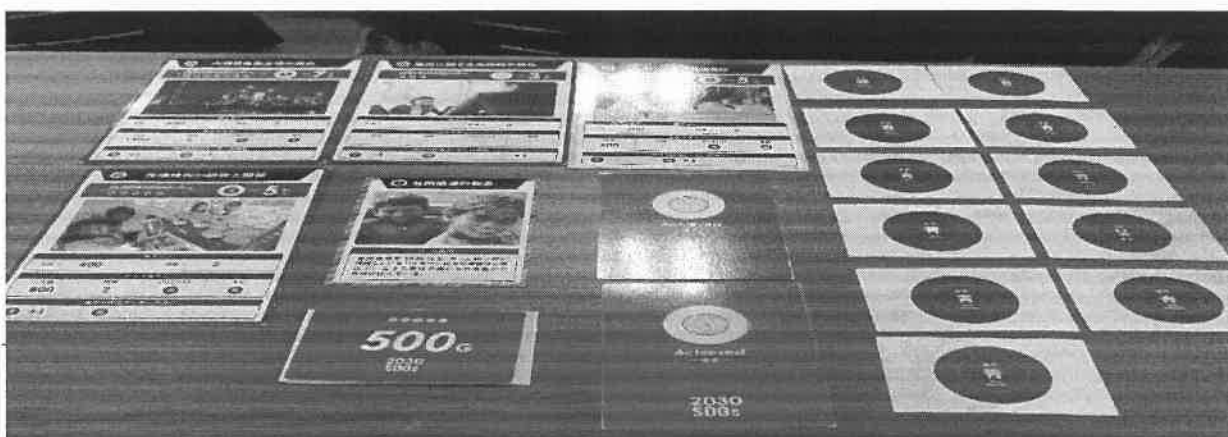
開催：日時：令和6年1月16日：午後2時～

場所：リファレンス国際ビル貸会議室2階

講師：2030SDGs公認ファシリテーター株式会社グローバルダイナミクス

取締役・長崎市政策顧問・大阪市特別顧問・芸術文化観光専門職大学教授・神戸情報大学院大学教授

山中 俊之 氏



今日の内容 午前 10 時～12 時 30 分

- ⑤ 地方創生と SDGs
- ⑥ ②SDGs カードゲームを体験
- ③議員として

所感

地方創生は、少子高齢化に歯止めをかけ、地域の人口減少と地域経済の縮小を克服し、将来にわたって成長力を確保することを目指している。地方が将来にわたって成長力を確保するには、人々が安心して暮らせるような、持続可能なまちづくりと地域活性化が重要である。 持続可能なまちづくりや地域活性化に向けて取組を推進するに当たっては、SDGs の理念に沿って進めることにより、地域課題解決の加速化と相乗効果が期待でき、地方創生の取組の一層の充実・深化につなげることができる。SDGs を原動力とした地方創生を推進している。 SDGs においては、17 のゴール、169 のターゲットが設定されるとともに、進捗状況を測るための約 230 の指標（達成度を測定するための評価尺度）が提示されている。これらを活用することにより、行政、民間事業者、市民等の異なるステークホルダー間で地方創生に向けた共通言語を持つことが可能となり、政策目標の理解が進展し、自治体業務の合理的な連携の促進が可能となる。これらによって、地方創生の課題解決を一層促進することが期待されている。

る。当市では、「横手市まち・ひと・しごと総合戦略」における「目指す姿」や「基本目標」、「共通目標」に掲げる取り組みの方向性は、SDGsの理念と重なると考え、SDGsの17の目標と第2期横手市総合戦略に示す各施策に関連付けて地方創生を推進している。しかしながら講師の指摘にもあったようにSDGsはあまり進んでいないように感じている。今後、さらなるステップを提案したいと思い受講した。

最初に、クイズ「15.7%とは」・・・「600万トンと300万トン」・・・「100種減少」・・・?何か。

国連は、SDGsの目標ごとに世界の進捗（しんちよく）をまとめた「報告2023特別版」を発表している。報告書には、「順調に推移している」と言えるのは15%のみだとして、「SDGsの危機」を強調し、各国の取り組みの強化を求めている。説明では、「貧困をなくそう」では、「現在の傾向が続けば、5億7500万人が依然として極度の貧困にあえぎ、2030年までに各国の貧困レベルの人の割合を半減できるのはわずか3分の1の国にとどまる」と指摘。

「飢餓をゼロに」についても、飢餓に苦しむ人の数は2021年時点でコロナ禍前を大きく上回る8億人近くにのぼる。2030年には6億人以上が飢餓に直面すると予測されたため、食料システムの変革や持続可能な農業への投資が必要だとしている。「ジェンダー平等を実現しよう」では、「多くの分野で進歩が遅すぎる。現在のペースでは、児童婚をなくすのに300年、女性が権力とリーダー

シップがある地位に平等に就くまでに140年かかる」など気が遠くなるような状況にある。「つくる責任、つかう責任」に関しては「2030年までに1人あたりの食品ロスを半減させるという努力において、世界の進捗は著しく遅れている」と述べ、目標13「気候変動に具体的な対策を」についても「現在の気候行動計画のペースと規模では、効果的に気候変動に取り組むにはまったく不十分」「単なる計画や約束を超えた、緊急かつ変革的な行動が重要だ」と訴えている。講師の私見では、地方創生の考え方は単に人口増加策ではない。「社会全体をどのようにSDGsの視点から変革していくかが問われる。」「世界の動きを視野に入れる。世界経済の動向に加え先進事例を入れる。」「リーダーとリーダーが行う尖ったことを取り入れる地域風土が重要である。」と。「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指すために、2030年を年限とする17の国際目標設定が国だけでなく、地方による取り組みも求められている。」具体的にどのように推進するのかをSDGsカードゲームで学んだ。カードゲームは、何種類かあるとのことだが、参加者がゲームの体験を通じ楽しみながら「なぜ、地方創生にSDGsの考え方が必要なのか」を感じて様々な利害関係と、対話の重要性や持続可能な社会のあり方について学ぶことで、参加者一人一人の行動を起こすきっかけとなる。私のカードは、「貧困のカード」だった。12枚の貧困を解決するためのカードが必要で対話の重要

性や持続可能な社会の在り方について学ぶことが出来た。前半は自分のカードのゴールに集中していたが、グループで達成出来るのか、後半では、他の人が達成しているのかどうか、他のグループを意識して声をかけた。自分の目標達成のためには周りの方とのコミュニケーション・情報の共有は重要と感じた。

SDG s の「誰一人取り残さない」世界共通の目標をわが市、自分のこととして受け止めることができるかが重要である。次の世代に私たちはSDG s の目標達成に向けて努力をしていかなければならない。講義から少しでも前へ推進することの大切さを学び、今後の議員活動の原点に、「誰一人取り残さない」SDG s の信念をもって取り組んでいきたい。

資料報告書

2. 地方創生 SDG s 特別講座

<part2:各論>人口増加策、DX、GX、公共交通

2030SDG s 公認ファシリテーター
株式会社グローバルダイナミックス取締役
長崎市政策顧問・大阪市特別顧問
芸術文化観光専門職大学教授・神戸情報大学院大学教授
講師：山中俊之 氏

Part 2 の内容

- ・人口増加策
- ・公共交通
- ・DX
- ・GX
- ・新しいコミュニティのあり方
- ・議員として

【地方創生の事例】

1. 私見：地方創生の考え方

- ・単に人口増加策ではない。社会全体をどのようにSDG s の視点から変革していくのかが問われる。
- ・世界の動きを視野に入れる。世界経済の動向に加え先進事例を取り入れる。
- ・リーダーとリーダーが行う尖ったことを取り入れる地域風土が重要である。

1位：人口増加率 北海道 占冠村 (しむかつぶむら)

※ コロナ禍になる前からコロナ禍に突入する 2017 年～2020 年まで、北海道の占冠村は 3 年連続の人口増加率。その大きな要因を担っていたのが占冠村にあるリゾート施設で、海外の労働者を多く雇用し、住居も整え、リゾート施設を運営する形態をとっている。

○徳島県 上勝町 (かみかつちょう)・神山町 (かみやまちょう)

上勝町は、徳島市から車で 1 時間。長年人口減少の過疎の町であったが、「葉っぱビジネス」と「ゼロ・ウエスト」で人口増を図る。※ゼロ・ウエストとは「無駄・ごみ・浪費をゼロにする」ことを意味します。運動はできるだけ廃棄物を減らす、そもそもゴミを生み出さないようにする活動のことをいい、世界中でごみゼロに向けた活動が広まっている。

○神山町 (かみやまちょう) は、徳島県の中部にある町。外国人の移住を奨励して多くの外国人移住。

○熊本県菊陽町 (きくようまち)

・台湾 TSMC の工場建設で優秀なエンジニアが移住する熊本県

○インド・ハイデラバードの成長

- ・インド工科大学の存在で世界の巨大 IT 企業が集結。
- ・IT 人材・英語力が成長の鍵

○欧州で公共交通無料の動き

- ・ルクセンブルグでは、2020 年 3 月より、公共交通を無料にした。ひどくなっていた大気汚染と渋滞を防ぐためである。
- ・都市単位では、エストニアの首都タリンや仏ダンケルクでも実施。

○カナダ・ヴィクトリアの公共交通

- ・1 日乗り放題で 5 カナダドル (550 円) 自転車と公共交通に力を入れる。

○ウィーンの自転車レーン

- ・自転車レーンに多くの場所を割くウィーンでは、自転車と徒歩で回ることができる。

○英国誌 *Economist* が富山の都市計画を高齢化社会に向けたコンパクト・シティとして世界的な模範と評価。(2002年)

○自治体DXのあるべき方向

- ・単なる電子化ペーパーレスではない。
自治体のあり方を根底から変える施策。
- ・社会変革、組織変革の知見とIT知見の融合が必要。
- ・外部人材と内部人材の役割分担。

○DXの先端を行くソウル市役所

- ・ペーパーレスは当然であるが市民のIT化を促すためにプレゼントもあり。

○札幌市のDX児童虐待対応

- ・事例を集約して、縦割り防止
- ・情報を一元化して各家庭の状況が分かるようにした。
- ・記憶する職員の失念を防止するための機能を充実させる。

○GXと地産地消再生可能エネルギー

※「GXとはグリーントランスフォーメーションの略。簡単に言うと、化石燃料をできるだけ使わず、クリーンなエネルギーを活用していくための変革やその実現に向けた活動のことです。」

- ・岐阜県高山市の奥飛騨地区では、バイオマス及び地熱、水力を活用して、地産地消の再生可能エネルギーへの取り組みが進む。地域の資産を効率的
- ・効果的に使うことができる手法（飛騨高山しぶきの湯バイオマス発電所）がある。

★電力社会に高い電力代金を払う代わりに地産地消型の再生可能エネルギー発電はできないか。 ■ 高山市企業立地支援制度 木質バイオマス発電・熱利用事業の初期投資に対する助成・固定資産税の10年間免除・雇用促進助成金5年間を行っている。

G Xとしての認証マーク取得

- ・環境破壊されていない農園で取られたパーム油に関する認証
- ・海のエコラベル(持続可能な漁業で獲られた水産物)MSC認証
- ・責任ある養殖により生産された水産物 (a s c)

棚田の環境保護機能

- ・兵庫県香美町小代の棚田。日本の棚田百選に選ばれる。

棚田は、洪水や土砂崩れを防止する機能があり、結果として生物の生態系を守ることに繋がる。

参考：カーボンネガティブへ

※カーボンネガティブとは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量が、森林や植林による吸収量よりも下回っている状態を意味する。

- ・カナダのカーボン・エンジニアリング社は、二酸化炭素1トンを約1万1000円で吸収する機械を開発。他者を含め開発競争が続く。（出典 BBC）
- ・温暖化ガス排出削減だけでなく、地球上の温暖化ガス自体を削減しないと危機は克服できない。

「地球の未来のために僕が決断したこと」ビル・ゲイツ

●資料：日本は、2050年にカーボンニュートラルの達成を目標としている。また、2030年度に温室効果ガスを2013年と比較し46%削減するという目標を掲げています。現段階では、カーボンネガティブの前段階の「カーボンニュートラル」を目指すことが国の目標となっています。計画の中には、「脱炭素選考地域づくりに関する交付金」があり、選定された地域に対して最大50億円の補助金が交付されるといった大規模な取り組みが見られる。

○コミュニティのさらなる劣化

・現代日本社会は、コミュニティの助け合いが脆弱と言われてきた。 → ソーシャルディスタンスによりさらに劣化する可能性 → 引きこもり、孤独死、DVなどの問題がより深刻化。ボーダーラインの人々の状況悪化(より孤立化する人々への支援策はあるか)

私見：ソーシャルディスタンス時代のコミュニティ(市民参画、協働)や福祉・医療の在り方を検討すべき

【事例：兵庫県朝来市（あさごし）のサードプレイス】

・兵庫県朝来市（あさごし）では、自宅でも学校でもないサードプレイスでの活動を活発化させている。自宅でも学校でも居場所がない、または他の場所が欲しい中高生にとって重要な拠点になる。

※「サードプレイス」家」でも「学校」でもない「第三の居場所」

いつもと違う場所で、いつもと違う自分に出会うこと。普段の環境にはない考え方や生き方に触れる経験は、あなたを大きく成長させてくれる。ここは自分らしさを素直

に表現でいる場所であり、新たなことに挑戦できる場所であり、夢への一步を応援してくれる仲間の集まる場所。あなたの居場所はあなた自身が作る。

主催：朝来市役所総合政策課 Ⅱ：079-672-6110

★地方創生重要な視点（インクルーシブ）

※インクルーシブは教育現場を中心に注目を集めているキーワード。簡単にいえば、障がいの有無、国籍、年齢などに関係なく認め合い共生すること。

事例：豊岡市のジェンダー平等の取り組み

- ・外国の情報、技術を取り入れ、新しいビジネスが生まれる
- ・個人の価値観を尊重した可能性が広がる社会
- ・おしゃれなカフェ、多様な仕事場
- ・女性の社会進出（女性目線で働きやすい）
- ・働く時間の減少
- ・今より個性重視になっている
- ・デジタル化により誰にでもできることが増える
- ・女性の働きやすさUP
- ・若者が地元での自立を進んで選ぶ。制約のない職業選び
- ・遠隔地での仕事ができる
- ・ユニバーサルデザイン、みんなが使えるものが増える
- ・多様なコラボが実現
- ・ムダの解消（空き家、ごみなど）
- ・仕事、職業の男女差の解消
- ・人口増加（I・Uターン）

Iターンとは都市部から地方に移住し職に就くこと。（出典）豊岡市HP

○都市集住時代の終焉

大都市集住のリスクが広く認識される → 密・集住ではない地域の魅力が再確認、最も単に自然があるというだけでは魅力が中途半端

私見：自然と芸術が両立した新たな芸術田園都市構想を打ち出す。

地方創生時代の地域コミュニティの在り方

所感報告書

2. 地方創生 SDG s 特別講座

<part2:各論>人口増加策、DX、GX、公共交通

2030SDG s 公認ファシリテーター
株式会社グローバルダイナミックス取締役
長崎市政策顧問・大阪市特別顧問
芸術文化観光専門職大学教授・神戸情報大学院大学教授
講師：山中俊之 氏

Part 2 の内容

- ・人口増加策
 - ・公共交通
 - ・DX
 - ・GX
 - ・新しいコミュニティのあり方
 - ・議員として
-

所感

地方創生の考え方は、少子高齢化や人口の過疎化を解消し、地域経済や地域住民の活動を活発化させることを目的としている。地域活性化の取り組みには、観光や街づくり、雇用拡大などの様々な事例の紹介があった。

地方創生の考え方として、ポイントは大きく2つ「人口の減少」と、「東京一極集中」である。人口減少は日本全国で発生し、少子高齢化が深刻な社会問題となっている。出生率も低下し、今後、日本の人口は減少していくことが確実となっている。人口減少は単に人が減っているのでは

なく、生産年齢人口といわれる働き手の割合がどんどん少なくなり、人口の減少が最も直接的に影響するのは、人手不足で、労働力が不足すると経済全体の衰退につながる。こうした人口減少は地方においてより速く進行している。

2つ目の「東京一極集中」については、首都である東京には、日本の人口の約3割が生活している。人や企業が東京に集中することで、生産性が高まるといったメリットも存在しているが、首都直下型地震などの災害時のリスクが増加するといったデメリットも存在する。こういった状況を解決するためにも、UIJターンといった地方に人口を分散させていく施策を行う必要がある。講師の私見的な考えでは、単に人口増の策ではなく、社会全体をどのようにSDGsの視点から変革していくのか。世界の動きも視野に入れながら世界経済の動向に加え先進事例を取り入れる事も大切だ。さらに、地域風土を生かすことが重要であるとの見解だった。 ※UIJターンとは大都市圏から地方への移住。

1、熊本県、上勝町は「葉っぱビジネス」と「ゼロ・ウエスト」で人口増を図ったとして紹介があった。上勝町の「葉っぱビジネス」は全国に知られている。その特徴は、担い手の中心が地元のおばあちゃんたちで70代から80代、中には90才を超える方もいるそうだ。おばあちゃんたちによって葉っぱは育てられ、採集し、市場に出荷されている。上勝町での葉っぱビジネスは年商2億6000万円で(2007年時点)。個人では、年収1000万円を超えるおばあちゃんもいるそうだ。たかが葉っぱではなく、それだけの価値を持っている。葉っぱビジネスの成功の要因は、①全てはビジョンから②顧客を理解し、選ばれる理由(提供価値)をつくるマーケティング③人々と町を変えた当事者意識。何よりも「住民みんなが町のことを自分たちの問題として考えられるようになったこと。当事者意識が人々を変え、町を変えた。このことから、発想の転換が成功しその結果、人口増につながっている。その陰には、並々ならぬ苦勞があったと思うが、町民が団結し電気機器を使いこなして最終的には成功して全国に「葉っぱビジネス」と知られるようになった。まちづくりの成功は人口増につながることを学んだ素晴らしい事例の紹介だった。さらに、紹介があったゼロ・ウエストでは、町民全員が協力し、資源45分別の実践で子どもからお年寄りまですべての人々が、ごみ処理所に自らごみを持ち運び丁寧に分別している。その数は45種類。たとえば、紙は紙でも、汚れている紙、色のついている紙、コピー用紙など様々な種類に分けられる。全町民が協力して毎日欠かさず行うことで80%のリサイクル率

は守られている。このような講義からSDGsの視点から変革している上勝町の取り組みはすばらしい魅力がある。人口増につなげるには、ゼロ・ウエストの取り組みには町民の一体的な団結がかかせない。わが地域を輝かせるためのビジョンが重要なカギとなると感じた。（※ゼロ・ウエスト＝ごみをゼロにすること）その他、熊本県菊陽町台湾 TSMC の工場建設で優秀なエンジニアが移住。菊陽町の発展スピードは、TSMC 進出のおかげで日本の半導体産業をけん引する「まち」へ生まれ変わった。その他、世界の公共交通の状況や、自治体の DX のあるべき方向について、高山市「地産地消型の再生可能エネルギー発電」また、兵庫県朝来市のサードプレイス（第3の居場所）による「引きこもり、孤独死、DV」などの問題の支援策についてなどの紹介があった。このような講義内容から「地方創生SDGs」について多くの情報を得ることが出来た。当市の取り組むべきビジョンをお聴きし、一般質問等で今後の取り組みをお伺いしたい。
